

2026年3月25日

シンガポールWG

リーダー AsiaWise Professionals 奥 啓徳

## シンガポールWG活動報告（15分）

### 1. シンガポールWGの位置づけ

シンガポールWGは、SEAIPJの中でも、シンガポール駐在メンバーを中心に、日系企業・法律事務所・JETROが参加し、実務ベースの知財課題について情報共有・議論を行う場です。制度紹介にとどまらず、「実務で何が起きているか」「企業としてどう対応するか」という観点での議論を重視しています。

---

### 2. 活動概要（2025年6月～2026年1月）

2025年4月から2026年1月にかけて、計5回の会合・意見交換を実施しました。

- ・2025年4月
- ・2025年6月
- ・2025年8月
- ・2025年10月
- ・2026年1月

いずれもハイブリッド形式で実施し、企業・法律事務所・JETROなど多様な参加者による議論が行われました。

主なテーマは以下の通りです。

- ・各国知財制度（インド、ASEAN）
- ・模倣品対策・エンフォースメント
- ・AIと特許審査
- ・企業実務（研究開発、職務発明など）

---

### 3. 各回の主なトピックと議論（質疑含む）

#### (1) 2025年4月：OSS（オープンソースソフトウェア）に関する意見交換

スピーカー：日立 OSS チーム

本件は、企業実務に直結する重要テーマとして実施されました。

主な論点として、

- ・OSS利用に伴うライセンスリスク
- ・社内での管理体制（どこまで把握・統制するか）
- ・グローバルでの運用（本社と海外拠点のズレ）

といった点が共有されました。

質疑では、かなり実務的な悩みが出ました。

「OSS はどこまで管理すべきか」

→ 全てを統制するのは現実的でなく、リスクベースでの管理が必要

「開発現場と法務・知財の連携をどうするか」

→ 後追いではなく、開発プロセスに組み込む必要がある

また、

OSS は単なる IT の問題ではなく、知財リスクとして扱う必要がある、

という認識が共有されました。

---

## (2) 2025 年 6 月：インド知財制度

スピーカー：中野裕之氏 (JETRO ニューデリー)

中野氏より、インドの制度および実務の全体像について説明がありました。

主なポイントとして、

- ・制度自体は整備されているが、運用面に不確実性
- ・デリー高裁はプロパテント傾向
- ・大学 (IIT 等) が出願主体として存在感
- ・BIS 認証が事実上の非関税障壁

質疑では、かなり踏み込んだ議論がありました。

「インドで特許を取る意味は何か」という問いに対しては、

単なる権利取得ではなく、ライセンス交渉や訴訟におけるカードとしての意味が大きい、という整理がされました。

また、

「訴訟は実際に使えるのか」という点については、

一定の予見可能性はあるものの、時間・コストを踏まえると選別が必要、という現実的な見方が共有されました。

さらに、

実施要件についても、現時点で厳格運用ではないものの、無視できないリスクとして認識されました。

---

## (3) 2025 年 8 月：陸側 ASEAN の知財動向

スピーカー：内藤康彰氏・久木田俊氏 (JETRO バンコク)

ASEAN の中でも制度整備が遅れている地域にフォーカスした説明がありました。

主なポイントとして、

- ・ASEAN 内で制度差が大きい
- ・模倣品対策、特にオンライン対応が課題
- ・AI 導入は関心が高いが制約あり

質疑では、現場の悩みが多く共有されました。

「EC サイト上の模倣品をどう止めるか」という問いに対しては、  
削除しても再出品されるため、継続的対応が必要という現実が共有されました。

また、

「行政対応と訴訟のどちらが有効か」については、  
多くの国で行政対応が現実的だが、訴訟は抑止力として活用されるという整理でした。

さらに、

規制（医療機器等）を活用した間接的エンフォースメントの有効性も議論され、  
知財単独ではなく複合的なアプローチの重要性が認識されました。

---

#### **(4) 2025 年 10 月：企業実務・模倣品対策**

スピーカー①：奥村氏（デンネマイヤー）

スピーカー②：シャチハタ

この回は、企業実務と技術に焦点を当てた内容でした。

知財管理の高度化（AI・ポートフォリオ分析）に加え、

個体識別技術による模倣品対策が紹介されました。

質疑では、かなりリアルな経営判断の議論となりました。

「技術による真贋判定はコストに見合うか」という問いに対しては、  
高価格帯やブランド重視製品では有効だが、全てに適用するのは難しいという整理で  
した。

また、

「現場で本当に使えるのか」という点については、  
技術だけでなく、税関・警察への教育や運用体制が不可欠であることが強調されました。

さらに、

模倣品対策はコストではなくブランド保護の投資と捉えるべき、という視点が提示されま  
した。

---

#### **(5) 2026 年 1 月：ASEAN 実務課題整理**

スピーカー：西尾元宏氏（JETRO シンガポール）

これまでの議論を踏まえた整理が行われました。

- ・シンガポールは最も成熟した知財ハブ

- ・インドネシアは市場は大きい実務課題あり

質疑では、経営に近い論点を中心でした。

「ASEAN で生まれた発明の帰属はどうするか」という問いに対しては、  
契約未整備のまま進んでいるケースが多く、事前整理の重要性が指摘されました。

また、

「どの国を優先すべきか」という点については、

市場規模だけでなく、制度・エンフォースメント・戦略を踏まえた選択が必要とされました。

---

#### 4. 横断的な論点（WGでの共通認識）

5回の議論を通じ、以下が共通認識となりました。

- ・ 模倣品対策、特にオンライン侵害が最大の課題
  - ・ ASEANは国ごとの差が大きく、個別戦略が不可欠
  - ・ AIは今後の実務に影響するが導入格差あり
  - ・ 知財は研究開発・契約・ブランドと密接に関係する経営課題
- 

#### 5. 今後の方向性

- ・ 実務課題ベースのテーマ設定
- ・ 企業事例の共有
- ・ 国別深掘り
- ・ 外部機関との連携

を軸に活動を継続していきます。

---

#### 6. まとめ

シンガポールWGは、制度紹介中心から、実務・経営課題に踏み込んだ議論へと進化してきました。

特に、

模倣品対策、エンフォースメント、研究開発管理が重要テーマとなっています。

引き続き、実務に資する情報共有の場として活動していきます。